法王は４日間入院

大ローマ布教所長
山口　英雄　*Hideo Yamaguchi*

法王は４日間入院

法王フランチェスコは、2023 年３月 29 日、体調不十分な中、多くの信者を前にして、一般謁見を行った。その後宿舎に戻り、昼食を取った後に呼吸困難を起こし、急遽パトカーでジェメッリ総合病院へと運ばれた。診断の結果は気管支炎で、即入院となった。気管だけでなく、肺や心臓にも異常が見られた。病室は 10 階にある法王専用のフロアで、ローマ法王の寝室のほかに、小チャペル、小サロン、大サロン、秘書の部屋、保安官の部屋、医師の集会室、キッチンが確保されている。これらの部屋は、廊下を中心にして両側に分かれていて、廊下の一方の突き当たりは壁になっており、廊下の他方の端がそれらの部屋への出入り口となっている。その前には階段があり、医師専用のエレベーターがある。法王は肺の治療を受けた。法王は治療後休息をとり、祈りに専念し、また差し迫った仕事をこなし、やがて体調も良くなった。世界のあちこちで、法王の早期回復を祈り、お見舞いの電報が次々と届いた。

３日目の３月 31 日には、フランチェスコ法王は順調に回復しており、もう大丈夫という感じになった。復活祭を 10 日後に控え、すべきことがたくさんあるのだ。そのために一刻も早く退院して、ヴァチカンに戻り、多くの信者たちに元気な姿を見せたがっていた。法王は 12 月 17 日生まれで、2022 年 12 月に 86 歳になったばかりだ。その歳にもかかわらず、法王就任以降、訪れた国は 40 カ国にのぼる。法王は、復活祭の行事は何一つ欠かすことなく、自ら行う予定だったが、体がついていかない時には代理を立てることにしていた。

法王は自分の入院している部屋から一つ離れた小チャペルに、同じ病院に入院している「腫瘍」を持つ子どもたちを集め、ミサを行った。その中の一人はミグエル・アンジェルで、彼は生まれたばかりだった。法王は彼に洗礼を授け、お祝いに「復活祭」の時の卵形のチョコレートを渡していた。「今日からあなたはカソリック教徒です。法王フランチェスコから、洗礼を受けたと、周りの人に言い続けなさい」と言葉を添えた。法王は４月１日に退院して、ヴァチカンに戻った。そこでは、法王のことを心配していた６万余の信者たちが法王を待ちわびていた。

４月３日には、法王はボスニア＝ヘルツェゴビナ共和国のボルジャーナ首相と面会しなければならなかった。復活祭前の１週間は、キリスト教にとって一番大切な時だ。信者たちは法王の説教、お告げの祈り、教会の祝福の言葉、法王の世界のカソリック信者への呼びかけの言葉などを聞きたがっているのだ。法王は４月７日、退院６日後の夜に「聖金曜日」の Via Crucis（ローマのコロセオで行われる 13 階段への道）に臨席する予定だったが、本年は異例の寒さのためにやむを得ず欠席しなければならなかった。

現法王：就任後満 10 年経過

現法王の本名はジョルジュ・ベルゴリオという。彼は 2013 年３月 13 日に、コンクラーベの結果、266 代目の法王に選ばれた。法王名をフランチェスコと名乗った。初めての司牧の旅は、2013 年７月８日だった。場所は、イタリア最南端のランペドゥーザであった。そこはアフリカのチェニジアに近く、多くの難民やヨーロッパ移住の希望者の“たまり場”である。彼らは船やゴムボートに乗って、ヨーロッパに向けて航海する。ランペドゥーザとチェニジアの港の距離は 150km で、ゴムボートで２、３日かかるようだ。地中海でも荒れる時がある。そんな時には、ゴムボートがひっくり返り、乗客は海に放り出される。船に乗るために、大金を払い運良くランペドゥーザに着いて、そこで数日間過ごしたとしても、彼らの望む北ヨーロッパへと行く道程は果てしない。海が荒れて、溺れて死んだ人もたくさんいる。そこで、法王は「我々は全てが責任者である」と述べ、さらに「この出来事に無関心なグローバリゼーション」の動きが進んでいると世界に訴えた。さらに世界が驚愕したのは、現法王フランチェスコが 2019 年４月 11 日、南スーダンを訪れた時だった。南スーダンの政治的リーダーに会った時、そのリーダーの前に膝まずき、彼らの足に接吻したのだ。「対立をやめ本当の兄弟として、接して欲しい。そして、平和であれ」とメッセージを残した。

法王就任以来の 10 年間は、昨年 12 月 31 日に亡くなった前法王ベネディクト 16 世名誉法王の影となり、日向となったりしていた。この二人の法王の存在が、ヴァチカン内部にいかに影響を与えていただろうか。現法王はヴァチカン内部を改革しようとし、今までの法王と違うことを示すために、宮殿において起居しないで、ホテルのようなサンタマルタ宿舎に常住し、身に着ける十字架なども、材質は「金」ではなく、「鉄」を使っている。しかし、前法王がいるということから、現法王に従わず、彼に背を向けるものがかなりいたようだ。つまり、現法王に反対する立場の者も多かった。しかし、前法王が亡くなってからは、現法王に対立する者が少なくなってきているようだ。現法王ならではの独自性を打ち出すのはこれからだと言う人もいる。

聖職者の結婚はありうるか

カソリック世界では、聖職者は独身でなければならないという暗黙の了解が続いている。世界の人々は「歴史的事実」としてこれを受け止めている。この件について、現法王は、「いや、これは規則であって、天命ではない」、「これは西欧教会 (ラテン教会) の特色である」、「東方カソリック教会には、すでに結婚した神父もいる」、「ヴァチカンの司教の中にも一人いる。彼に先ほど出会ったが、彼には妻子がいる」、「ヴァチカンの秘書パロリンも言っているように、この問題は教義にしたがっているということではない」と発言してきた。そして、法王によれば、これからは人も変わり、時代も変わり、いずれ独身制度が変更されるかもしれないという。聖職者の独身制度は決して永遠の律法ではないようだ。